

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
郭 理恵			
添付ファイル			

講義概要	スクールソーシャルワーカーにとって必要不可欠な児童及び家庭に対する支援の方法について、ソーシャルワーク等各種の理論や技術を学び、実践に活用できるようにする。また、子どもを取り巻く社会の多様性を捉えながら、子どもの最善の利益を踏まえたチーム援助のあり方や包括的な視点を養う。 ※なお、第1～8回の内容に即したゲストスピーカーを招聘し、授業に参画していただくことを計画している。
各回の進行予定	<p>第1回 スクールソーシャルワークの視点/スクールソーシャルワーカーの仕事と役割 教育現場の抱える課題に対応すべきスクールソーシャルワーカーの仕事と役割を概観し、スクールソーシャルワークの視点について確認する。</p> <p>第2回 スクールソーシャルワークの価値・倫理・子ども観 スクールソーシャルワークの成立過程・歴史をたどり、価値や倫理、ミッションとビジョンについて学ぶ。</p> <p>第3回 スクールソーシャルワークの展開過程 スクールソーシャルワークの展開過程を理解し、実践に必要な技術を学ぶ。</p> <p>第4回 学校文化の特徴と就学前・学校種別の実践技術 スクールソーシャルワーク実践に欠かせない学校文化の特徴を捉える。また、就学前ならびに学校種別の実践の違いをふまえた実践を知る。</p> <p>第5回 スクールソーシャルワークの実際/児童虐待・ヤングケアラー事例をもとに 児童虐待の模擬事例を通して、子どもの安全、最善の利益を考慮した実践を検討し、チーム援助を学ぶ。また、児童虐待防止法や各種の通達文書をもとに、学校の対応の望ましいあり方についても考察する。</p> <p>第6回 スクールソーシャルワークの実際/いじめへの対応 いじめを認知した際の学校の対応について、いじめ防止対策推進法に則した展開について正しく理解し、地域連携によるネットワークを活用した事例により、人権侵害の予防と子どもの権利擁護のためにスクールソーシャルワーカーが果たす役割について考える。</p> <p>第7回 スクールソーシャルワークの実際/特別支援教育と合理的配慮 教育と福祉における障害児者への対応や合理的配慮について理解を深め、支援方法を検討する。</p> <p>第8回 スクールソーシャルワークの実際/子どもの貧困へのアクションと居場所づくり 子どもの貧困に関する基本的な理解と、学校の内外で展開される教育支援について考察するとともに、子どもの居場所づくりに焦点をあて、スクールソーシャルワーク実践と照らし合わせた具体的なアクションを検討する。</p>
講義のねらいと到達目標	<p>【講義のねらい】 不登校の急激な増加、児童虐待や子どもの貧困、いじめやハラスメントの問題、ヤングケアラーや外国籍の子どもの就学など、子どもをめぐる福祉的課題が山積している。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①支援を要する子どもや保護者の状況や生活背景、社会状況を認識し、その状況をアセスメントする</p> <p>②スクールソーシャルワーカーの職務を学び、学校と関係機関との連携について理解する</p> <p>③子ども・保護者への支援のあり方や具体的な支援計画の立案・実施方法を体得する。</p>
指定教科書(テキスト)	特に定めない
参考文献・関連URL等	<p>『アセスメントを技術を高めるハンドブック [第3版]』近藤直司著 明石書店 2025</p> <p>『子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち』幸重忠孝・村井琢哉著 かもがわ出版 2013</p> <p>『子どもの権利ガイドブック [第3版]』日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著 明石書店 2024</p> <p>『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』日本学校ソーシャルワーク学会編集 中央法規 2008</p> <p>『生徒指導提要改訂の解説とポイント：積極的な生徒指導を目指して』中村豊編著 ミネルヴァ書房 2023</p> <p>『三訂版スクールソーシャルワーカー実務テキスト』金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻 紀恵編著 学事出版 2022</p> <p>(その他、講義の中で随時紹介する)</p>
出欠確認方法	教員による目視ならびにリアクションペーパーにて確認する。3回以上欠席した者の単位認定はできない。
成績評価の方法	評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。リアクションペーパー(5点×8回=40点)、授業参加姿勢やグループワークへの貢献度(20点)最終レポート(事後課題・40点)を総合して評価する。
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。 修了評価は、講義・演習等の参加姿勢及びレポートの内容で評価する。
事前・事後学習のためのアドバイス	授業計画で示された事項について日常的に関心を持ち、積極的に授業に臨むこと。また、授業で扱った内容について、自身の生活のなかで主体的な思考を深め、かつ実践現場に還元すること。
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	<p>同じ分野専門科群に位置づけられている「児童虐待対応ソーシャルワーク」の履修を勧める。</p> <p>キーワード：スクールソーシャルワーク 子どもの最善の利益 居場所づくり</p> <p>【認定社会福祉士研修認定科目】</p>

ベンチマーク	<p>この科目で獲得を目指すディプロマ・ポリシーについて次のように優先順位を位置づけています。</p> <ol style="list-style-type: none">1. イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者2. ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者3. ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者
--------	--